

会議録  
令和5年度 第2回総合教育会議

- 1 日 時 令和5年12月22日（金曜日）  
午後2時45分～午後4時15分
- 2 場 所 市役所本庁舎2階 市長公室
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
教育長 山口 武士  
委員 宮 陽一  
委員 深井 美千代  
委員 横田 豊三郎
- 4 欠席者 委員 深野 はるみ
- 5 署名委員 教育長 山口 武士  
委員 深井 美千代
- 6 説明職員 教育部長 磯谷 雅之  
学校統括監 武田 圭介  
学校教育課長 大竹 宏治  
学校教育課指導主事 矢場 友道
- 7 事務局職員 政策財務部長 水口 知詩  
政策企画課長 荒田 和久  
政策企画課副課長 甲佐 隆志  
政策企画課主査 池田 達哉  
政策企画課主任 須堯 陸海
- 8 傍聴者 0人
- 9 議 事 G I G Aスクール構想の進捗について

## 【星野市長】

皆様こんにちは。令和5年度第2回総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。委員の皆様方におかれましては、日頃から本市の教育の振興にご尽力を賜っておりますこと、改めてお礼申し上げます。

さて、委員の皆様はご存じだと思いますが、本市ではプログラミングやロボット作りを通じた問題解決能力を育む教育として、令和2年度からSTEM教育に取り組んでおり、今年度からは市内11校すべての小学校に展開したところでございます。

また、埼玉大学の野村先生にご尽力いただき、9月に小学生ロボコン・富士見市大会を開催いたしました。参加した子どもたちが、創意工夫を凝らした個性のあるロボットを持ち寄り、素晴らしい大会になったと感じております。このようなロボットづくりを通じて、トライアンドエラーを繰り返すことにより、問題解決能力を養っていただけるものだったところでございます。

もう一つご案内をさせていただきます。本市は、全国約400自治体が加盟している日本サッカーを応援する自治体連盟に加入しております。この連盟が開催する会議に私も参加し、ワールドカップの強化や社会貢献活動など、日本サッカー協会への取組に係るプレゼンテーションを受けております。その中で、JリーグのOB選手や、サッカーに限らず多種目の一流選手の方を「夢先生」という講師として行う「夢の教室」という事業を展開されておりました。これは良い取組であると思ひ、市長部局の文化・スポーツ振興課が中心となり、日本サッカー協会のスポンサーを務める三井不動産のご協力を賜り、ららぽーと富士見にて「夢の教室」を開催いたしました。

今回は、新体操の選手で北京オリンピックに出場した坪井保菜美さん、Jリーグ黎明期に活躍され、現在は日本サッカー協会のアンバサダーを務められている永島昭浩さん、この2人にお越しいいただき、ららぽーと富士見の会議室を会場として諏訪小学校の5年生の児童に向けて「夢の教室」を行っていただきました。内容としては、夢を持ち、夢に向かって努力することの大切さや、先生ご自身の失敗談、落ち込んだときのお話など、様々な経験の中からお話をいただきました。また、先生と子どもたちの距離を縮めるための様々なプログラムが組み立てられており、大変中身のある講義を展開していただきましたことをご報告させていただきます。

さて、本日のタイトルでございますが、GIGAスクール構想でございますが、市内小中学校の児童生徒が使用する一人一台端末を導入し、3年目に入ったところでございます。導入にあたりましては、コロナ禍と相まった状況の中で、大変スピードを求められる導入でもありました。そのような環境の中で、教育委員会や学校現場においてご努力をいただき、それぞれの学校でICTに長けた先生方を中心として、取り組みを行っていただいているところでございます。

今後におきましても、一人一台端末を活用し、子どもたちの勉強における活用や、先生方においては教える側としての使い方をさらに向上させていく必要があると考えております。本日はこのような状況をご報告させていただき、委員の皆様から、ご意見を賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**【荒田政策企画課長】**

星野市長ありがとうございました。

それでは、以降の進行につきましては、星野市長にお願いさせていただきます。

星野市長、よろしく願いいたします。

**【星野市長】**

それでは会議に移らせていただきます。議事に入る前に、本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員に、山口教育長と深井委員をご指名いたしますので、よろしく願いいたします。

本日の議事は、「G I G Aスクール構想の進捗について」でございます。

冒頭のあいさつの中でも触れさせていただきましたが、本市におきましては、令和3年度から一人一台端末を導入し、効果的な活用を目指して取り組んでまいりました。本日は、これまでの取組や今後の展望について、ご説明をさせていただきます。

それでは、学校教育課 矢場指導主事、お願いいたします。

**【学校教育課矢場指導主事】**

(G I G Aスクール構想の進捗について説明)

**【星野市長】**

ありがとうございました。

続きまして、G I G Aスクール構想に係る費用について、事務局からご説明をさせていただきます。それでは、政策企画課 荒田課長、お願いいたします。

**【荒田政策企画課長】**

(G I G Aスクール構想に係る費用について説明)

**【星野市長】**

ありがとうございました。まず、私から質問をさせていただきたいと思います。

その後、各委員の皆様からご意見、ご質問を頂戴したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

まず、各種調査結果の中で、各学校におけるミライシードの活用率と先生方の活用技能調査結果をお示しいただきました。各学校において活用率や活用技能の差が生じていることが分かりますが、この要因をどのように捉えているのかを確認させていただきたいと思います。

**【矢場学校教育課指導主事】**

ミライシードの活用率のグラフを見ますと、各学校で活用率に差がありますが、一人一台端末を導入してから3年目に入ったこともあり、各学校で使用しているアプ

リケーションが多様化しております。導入当初はミライシードを主に活用していましたが、現在はチームスや、スクラッチなど、様々なアプリケーションの活用を各学校で模索して使い始めています。そのため、ミライシードの活用も維持しながら、その他のアプリケーションも効果的に活用し、子どもたちの深い学びにつなげていく段階に入ってきているものと思っています。

続きまして、活用技能調査結果につきましては、まず、このアンケート調査は「まあまあできる」が、2点、「できる」が、3点、「人に教えることができる」が、4点となっており、4点になるハードルが高いと認識しています。グラフを見ると、ほとんどの学校において2点以上になっていることから、多くの先生が「まあまあできる」、「できる」以上の回答となっており、自信も付いてきていると思います。

また、各学校においては、ICT支援員に適宜サポートに入っているため、どの学校も少しずつではありますが活用技能は向上しております。

一方で、各学校で差が生じていることにつきましては、リーダーシップを持ってICTを推進できる先生がいるかどうかに関わっており、先陣を切って推進していく熱意のある先生がいる学校では、活用が進んでいると感じています。

#### 【星野市長】

ありがとうございました。

タブレットなどの端末を活用し、ミライシードや様々なアプリの活用が適した科目、また、従来どおりの方が良い科目など、科目によって差はあるのでしょうか。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

科目により、使いやすさの違いがあり、特に考察が必要な場面での活用が多く見られると思います。例えば、理科の実験時に、子どもたち一人一人の考えを共有するような場面での活用が多く見られます。

#### 【宮委員】

新型コロナウイルスの感染が広がり始めた頃に、子どもの学習機会を減らさないため、GIGAスクール構想による一人一台端末の整備などの教育環境の整備を行ったものと認識しています。富士見市は一人一台端末やソフト面の整備をスピーディーに取り入れていた印象があります。

質問をさせていただきますが、「教育委員会主催の研修会」の説明の中で、ICT活用プロジェクトチームは各校から選出した8名で組織しており、ICT活用推進リーダーは各校1名が担当しているとのことですが、これらの取組みを各学校の他の先生方にはどのような形で共有しているのでしょうか。

また、活用技能向上研修会は各学校の代表者、または希望する先生が研修を受けるものなのでしょうか。これらの研修会の参加の有無により、学校間の格差が生じてくるものと思います。

先日、タブレットを活用する学校の授業を見学する機会がありました。その際、一人だけ他の子と違う操作をしてしまい、違う画面が表示されたことから先生を呼んでいましたが、その先生も同じ画面に戻すことができていませんでした。最終的には、教室にICT支援員の方がいたので、他の子と同じ画面に戻すことができましたが、ICT支援員の方がいない場面もありますので、先生が対応できるようにすることが必要であると感じました。

また、子どものタブレットの活用方法について、保護者の方にも学んでもらう必要があるのではないかと感じています。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

まず、ICT活用プロジェクトチームやICT活用推進リーダーの取組内容をどのように、各学校に周知しているのかということですが、ICT活用プロジェクトチームでは、思考力を高められる、深められるような授業について研究しております。モデルとなる指導案をプロジェクトチームで作成し、市内全校共有のシステム等で各学校に配布しております。この他にも、希望する先生方が参加できる授業研究会を開催し、主体的対話的で深い学びの場につながるICTの効果的な活用に関する授業を参加した先生方にご覧いただいております。

ICT活用推進リーダーについては、各学校の代表者が参加しているため、参加者が各学校に戻った際に、全体に周知することとしております。

続いて、活用技能向上研修会については、ベネッセに協力をいただき、年2回実施しております。参加は希望制となっており、前回10月の研修会には、30名程度の参加がありました。他市からの異動で活用を始めたばかりの先生や、活用が進んでいる先生など、多くの方々にご参加いただき、意見交換や情報共有を行いながら研修を行っております。

また、1学期に行ったデジタル・シティズンシップ教育に関する研修会においては、文科省のDX戦略アドバイザーの為田裕行先生に講師を依頼し、ICT活用プロジェクトチームやICT活用推進リーダー、管理職、希望者を対象に研修会を行いました。このような形で、定期的に多くの方が参加できる研修会を企画し、先生方の技能向上に努めております。

また、授業中に先生1人では気づけないような子どもたちのつまずきに対して、ICT支援員にサポートいただくことが多く、ICT支援員は有用であると考えております。保護者に対するタブレットの活用方法の周知などについては、今後検討してまいります。

#### 【横田委員】

以前の総合教育会議で、ふじみ野小学校の校長先生にSTEM教育のお話をいただいてから、STEM教育について非常に興味を持っております。私自身、ものづくり

が大好きであり、STEM教育はものづくりを通して、先生も子どもたちも一緒に楽しみながら思考力を育める、非常に素晴らしい取組であると思っています。

前回の会議の時にもお話しした記憶がありますが、現在はSTEM教育ではなく、アートやリベラルアーツなどを含んだ教育であるSTEAM教育が主流になってきていると思います。現在は課題を解決する能力を高めることが一つの柱になっていると思いますが、近未来的には子どもたちが、課題を発見する方向に進んでいくのではないかと思います。そのために、ものづくりを通して試行錯誤を繰り返す中で、ここが課題であるということが分かってくると、例えばアメリカのGoogleやAppleなどに積極的に関わっていくような人材が日本からも出てくるのではないかと思います。

また、数学や理科の実験など、タブレットを使用している授業を実際に見させていただきました。私自身は、小中学校の授業でタブレットの活用を推進することについて否定的な考えを持っています。理由としては、タブレットを使用することにより、先生と子どもの距離感が非常に遠く感じたためです。最近では、医者診療でも、先生は患者を見て話すことよりもパソコンに向かって話していることの方が多いと感じていますが、果たしてそれで良いのかと疑問を感じています。

先ほど宮委員からも発言があったように、新型コロナウイルス感染症を契機として、学校におけるタブレットの活用などが進んでいることは、時代の流れとしては理解しております。一方で、デジタルで得られたものだけで判断するのではなく、子どもたちの顔色や息づかいなどのアナログ的な部分も先生方で情報を共有していくことが必要であると考えています。

#### 【星野市長】

タブレットを効果的に活用し、学力向上につなげていく一方で、やはりお互いの顔を見てお話をする、今ご指摘いただいたことは不可欠なことであると私も思います。

GIGAスクールの推進はメリットがある一方で、コミュニケーションが不足するという側面もありますので、先生方は、子どもたちにより目を向けなければならないということを強く感じています。

また、横田委員にご提案いただいた、STEM教育にAを加えて、STEAM教育としてはどうかという考え方について、山口教育長からご説明をお願いします。

#### 【山口教育長】

STEM教育、STEAM教育の件については、今回の12月議会の一般質問でも、市議会議員さんから質問をいただきました。本市としては「STEM教育という名称を使用していますが、Aの要素が入らないということではありません。」と答弁しています。本市のSTEM教育にご協力をいただいている、埼玉大学教育学部STEM教育研究センターの野村先生の考え方も同様であり、今進めているSTEM教育の中

には、アートの要素などを含んでいるため、STEAM教育とイコールと捉えており、名称の変更についても考えておりません。

#### 【深井委員】

GIGAスクール構想が始まってから3年目になり、タブレットの操作などが全体的に上手になってきていると感じていますが、その中でも苦手な子どもたちもいると思います。その子どもたちの補助は、ICT支援員さんなどが対応してくれていると思いますが、先生だけではなく、子どもたちの技能向上も目指した方が良いのではないかと思います。操作が苦手な子どもたちを取り残さないための取組として、補習などの機会が必要なのではないかと思います。

また、質問になりますが、課題の中で説明いただいた、関係ないログインや書き込みに対しての今後の対処方法などの考えはあるのでしょうか。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

現状としては、先生が見ていないところで、なりすましをしてログインをしてしまったり、悪口を書き込んだりなどが行われています。今までは、情報モラルの考え方として、これはしないようにしようとか、この時間は使うのをやめようなどの制限をかけていました。一方で、今後はデジタル・シティズンシップ教育の考え方として、子どもたち自身に、こういう使い方をしたらどういうことが起きるのかについて、学級活動の中で主体的に話し合い、本当に正しい使い方について考えていくことで、ICTの正しい活用方法の習得につなげていきたいと考えています。

また、文科省のDX戦略アドバイザーの為田先生は、ICTは何のために使っているのかということ子どもたちに問いかけているそうです。ICTは賢くなるための道具であり、賢くなるために使っていない場合は、間違った使い方だよ、賢くなるために正しい使い方をしようね、と声かけを常々行うことによって、子どもたちは自分たちで正しい使い方を学んでいくということのを為田先生の話の聞きながら感じました。

現在は、この考え方が全体に周知されていない状態のため、研修会などを通して、ICTは何のために活用するのかということ周知していきたいと思っております。

#### 【横田委員】

ICTの活用が進んでくるといことは、当然リスクも生じると思いますが、そのリスクについて子どもたちで話し合う機会はあるのでしょうか。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

現在では、道徳の教科書の中にデジタル・シティズンシップ教育の内容があります。

また、デジタル・シティズンシップ教育のための研修会を設定するなど、各学校において工夫をしながら、取り組んでいただいております。

### 【横田委員】

GIGAスクールとは直接関係ないかもしれませんが、先生と子どもたちとの距離の観点から話をさせていただきます。例えば、教壇から子どもたち30数人を見る距離は遠いと思います。一方で、より近づきすぎて話すのは圧迫感があります。私が生徒指導に携わっていたときには、子どもたちと話すときは、90センチくらいの距離感を持ち、目を見て話すようにと言っていました。

しかし、デジタルが間に入ってくることにより、子どもたちとの距離が生じて、例えば、おはようというあいさつのトーンなども感じ取るのが難しくなると思います。小学校の段階では、デジタルの余白の部分を感じ取りながら、子どもたちを育てることも必要だと思いました。

### 【矢場学校教育課指導主事】

先日、あるアプリケーションのプレゼンを受けましたのでご紹介します。そのアプリケーションをスタートするとき、子どもが笑っている顔か、怒っている顔か、普通の顔かのいずれかを選択し、自分の感情を表現します。そうすると、それが先生に送信されて、その子の気分が一目瞭然で分かるようになります。そして、それが毎日継続されていると毎日不機嫌な子が誰かがわかります。その機能をこれからは推進していきますと言っていました。つまり、顔を見なくてもその子の感情が読み取れるという時代が来るということです。

しかしながら、私はそれが正しいとは思いませんでした。従来から大事にしていた対面での会話や相手の感情を読み取るなどのソーシャルスキルトレーニングが、これからの時代だからこそ大事になってくると思います。そのため、ICT推進に関する研修会などにおいても、ICTの活用方法だけではなく、ICTを適切に活用できる場面はどこなのか、その授業で身につけたい力は何なのかを明確にしたところで使うということの研修も重要であると感じています。指導訪問などで授業を見ていると、イエス、ノーを問う場面でICTを使い、全体共有する場面をよく見かけます。挙手や、目の前の子どもに聞けばわかるようなこともICTを使っているのが現状です。そのため、本当に正しい使い方は何なのかというところを先生方に伝えていく必要があるとともに、目の前にいる人と対話をすることも重視したICTの効果的な活用というのを考えていく時代になってきていると思っています。

### 【星野市長】

今話を聞いていて感じたことですが、今の若い世代の先生方は子どもの頃からスマホなどが普及されている世代であり、そのような先生方がどんどん増えていくと思います。そうすると、先ほどの矢場先生が受けたプレゼンを肯定する先生方もいるのではないかと思います。若い世代の先生方が、自分の得意なパソコンを使って子どもたちに教えることができることは素晴らしいと思いますが、先生と子どもたちのコ



コミュニケーションの部分など、すべてをデジタル化するのではなく、アナログの部分を残すなどの考えも重要なのではないかと思います。

#### 【山口教育長】

今のやりとりに集約させていただきます。まず、課題として挙げている「ICT端末の効果的な活用」については、教育効果が発揮できるICT端末の活用ということであり、上手に使えるようにしていくことだけではなく、端末を活用せず従来の形の方が良い場面もありますので、これらのバランスを取りながらICT端末の効果的な活用を考えていく必要があると考えております。

また、今後の取組として挙げている「教員のさらなる授業力向上」について、これが今挙げた課題の解決のための取組となります。授業力の向上というのは、ICTを上手に使える授業力の向上ではなく、ICTを必要な場面で上手に使い、結果として学力を上げたり、子どもたちの成長を促したり、子ども同士の関わり合いを豊かにしたりすることにより、人間としての総合的な力をつけていくための授業力の向上と捉えております。

最後に、「児童生徒が使いたいときに使い、個に応じた方法で課題解決！そして、自由に表現できる授業へ！！」の実現を目指していますが、そのためには相当な指導力が必要であると考えています。これは私の30数年の教員の経験から言えることですが、今、授業を見に行くと、子どもによってICT端末を使ったり、紙を使ったり、友達と会話したりなど、30数人がバラバラなことをやっていることを1人の先生がコントロールするには、相当な授業力がないとできません。このような意味での授業力の向上を図らなければならないと考えており、市長からご指摘いただいたことも含め、私たち教育委員会、学校教育課は非常に重い役割があると、自覚しながら進めております。

#### 【星野市長】

現在は、中学校の中間テストや期末テストのときに、タブレットを使うことができるのでしょうか。

#### 【矢場学校教育課指導主事】

現時点では使っておりませんが、今後、県の学力調査などで、パソコンを使って回答するCBT化が予定されています。また、本市で使用しているミライシードやタブレットドリルもバージョンアップしており、ミライシードの中にCBT化した単元テストの導入を予定しているとベネッセから聞いております。今までは、単元テストを各業者から購入していましたが、ベネッセと契約することにより、様々な教科書に準拠したテストをCBTで受けることができるようになります。そして、すぐに採点もでき、先生方の丸付けの作業は一切不要になる時代があと少しまで来ていますので、今後、紙のテストは無くなるのではないかと考えています。

**【星野市長】**

テストの方法論として、そういう時代が来るということは理解しました。また、パソコンやタブレットを使用し、調べて回答するといったテストは行われているのでしょうか。

**【矢場学校教育課指導主事】**

調べて回答するようなテストは行っておりません。基本的には、紙のテストがそのままパソコンで受けられるようになるものであり、カンニング防止として、テスト中は他のサイトにアクセスを禁止しています。

**【星野市長】**

小学校は定期テストではなく、単元テストを行っているのでしょうか。

**【山口教育長】**

小学校は単元ごとのテストを主としています。現時点で予定されているものは、紙のテストをC B T化するものですが、これからの時代は、調べれば分かることはI C Tを使い、自分で考えたものを評価することが重点化されていく時代が来るのではないかと思います。

**【星野市長】**

本日は、学校における現在のG I G Aスクールの進捗状況の説明と課題などのご報告をいただき、また、先生方からも多くのご意見をいただきました。I C T化により、便利になる一方で、変えてはならないことを守る必要もあると考えております。

G I G Aスクールもスタートしたばかりであります。私自身も興味関心の高い分野でありますので、適時このG I G Aスクールの進捗を議事とさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日予定しておりました議事は終了いたしましたので、事務局から、連絡事項等があればお願いいたします。

**【荒田政策企画課長】**

事務局から1点ご報告がございます。本日の議事録署名委員に指名されております、山口教育長と深井委員におかれましては、議事録がまとまり次第、ご署名をよろしく願いいたします。

**【星野市長】**

それでは、以上をもちまして、令和5年度第2回総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。